

## 【第 36 回例会報告】=====

1. 参加者数：219名（学生会員15名含む）
2. 講演件数：24件（特別講演：1件、受賞記念講演：1件、招待講演：3件、一般講演：19件（学生口頭発表7件含む）
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：内藤 裕義 大阪公立大学）

今回の例会は、東京国際交流館 プラザ平成 3 階 国際交流会議場で、第 35 回例会に引き続き、対面での開催となりました。

今回の例会では、受賞記念講演 1 件、特別講演 1 件、招待講演 3 件、一般口頭発表 19 件（うち、学生口頭発表 7 件）で計 24 件の講演があり、219 名の参加登録者を得て開催することができました。

特別講演では、みずほ証券の中根康夫氏から、「岐路に立つフラットパネルディスプレイ業界、今後の見通し（と OLED の行方）」と題し、ディスプレイ業界の現状と将来展望に関するご見解をお話いただきました。ビジネスにかかわっておられる方々のみならず、大学で基礎、応用研究を進める方々にも有用なご講演でした。特別セッションでは励起子ダイナミクスをテーマに、大阪大学の相澤直矢先生からは、「励起一重項と三重項のエネルギーが逆転した遅延蛍光材料の開発」と題し、三重項状態のエネルギーが一重項状態のそれを上回るヘキサジン誘導体についての分子設計、合成、有機発光ダイオード作製により、内部量子効率が 100% に近く、遅延蛍光減衰が比較的高速な有機発光ダイオードを実現した研究を紹介いただきました。九州大学の楊井伸浩先生からは、「三重項-三重項消滅に基づくアップコンバージョン材料の開発」と題し、アップコンバージョンの基礎から高効率な可視-紫外アップコンバージョン材料開発およびその応用を紹介いただきました。大阪公立大学の池田浩先生からは、「励起三重項-基底三重項遷移蛍光に基づく「有機ラジカル EL」の開発」と題し、発見の経緯、発光原理とその特徴、有機発光ダイオード作製、今後の展望を紹介いただきました。

一般講演においては、一般口頭発表 19 件の講演がありました。熱活性化遅延蛍光/アップコンバージョン、新規デバイス/解析、電荷注入/輸送、学生口頭発表の 4 セッションを設け、様々な報告がなされました。内容としては、アップコンバージョンを利用した低電圧駆動青色有機発光ダイオード、物性予測を目指した機械学習、円偏光有機発光ダイオード、有機発光ダイオードを用いた水溶液中のイオンセンサー、電界誘起二重共鳴和周波発生分光による有機発光ダイオード特性評価、電荷輸送・電荷注入、ペロブスカイトナノ結晶発光ダイオードなど多岐に渡り、有機発光材料、発光ダイオード、センサーなどの基礎的な理解や高性能化、新しい応用の開拓が期待できる内容でした。

研究活動を通じた教育的観点より第 35 回例会から開始された学生口頭発表セッションでは、学生奨励賞を新設しました。学生の励みになることを期待しております。

初日の特別講演終了後には、展示会出展 9 社によるショートプレゼンを開催し、新規デバイス/解析のセッション終了後、Sky Restaurant シーガルに移動後、交流会を開催しました。交流会では本年 4 月に紫綬褒章を受章された安達千波矢先生に挨拶いただきました。

アンケートについては今回 52 名の方から回答をいただきました。取り上げるべきテーマ、運営上の問題など、頂戴したコメントは今後の参考とさせていただきます。運営委員会としては引き続き、有機 EL の最新動向に関連するトピック、および、有機 EL のデバイス開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に活かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。よろしくご依頼致します。

4. 例会プログラム・アンケート結果

[https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program36\\_2.pdf](https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program36_2.pdf) : 例会プログラム

<https://yuki-tohronkai.jp/data/question/20230628.pdf> : アンケート結果

5. 次回例会の開催案内（実行委員長：硯里 善幸 山形大学）

第 37 回例会は、2024 年 11 月 16 日（木）、17 日（金）に広島国際会議場（広島市）にて開催致します。詳細な開催案内は 8 月中旬頃に公開する予定で進めておりますので、皆さまのご投稿およびご参加をお待ちしております。

=====以上